

平成28年度第1回千葉県地域リハビリテーション協議会
開催結果概要

- 1 日時 平成28年9月6日(火) 午後1時30分～2時40分
- 2 会場 千葉県文化会館 聖賢堂 第1・2会議室
- 3 出席者 協議会員総数16名中12名出席
荒井泰助氏、安藤幸恵氏、薄直宏氏、児玉賀洋子氏、酒井譲氏、寺口恵子氏、
滑川佳奈恵氏、前川達雄氏(代理)、茂木優希氏、山崎潤子氏、吉永勝訓氏、
李笑求氏 (50音順)
オブザーバー1名出席(田中康之氏:県リハビリテーション支援センター)
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 議題
 - ア 地域リハビリテーション広域支援センターの指定について
 - イ ちば地域リハ・パートナー制度の概要について
 - (4) 報告
 - ア 千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業実施要綱及び協議会運営要綱改正について
 - イ 平成28年度千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動計画及び実施状況について
 - ウ 平成28年度地域リハビリテーション出前講座の実施について
 - エ 第51回県政に関する世論調査結果について
 - オ 千葉県地域リハビリテーションロゴマークについて
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 5 会議結果概要
 - (1) あいさつ
協議会吉永会長及び事務局である健康づくり支援課瀧口課長よりあいさつ
 - (2) 議題
 - ア 地域リハビリテーション広域支援センターの指定について
平成29年度からの新たな広域支援センターの指定の取扱について、資料1を用いて事務局より説明。協議会の承認を受けた。
＜吉永会長＞
新八千代病院においては、条件が合えば指定を受けたいとのことだが、継続を前提に作業を進める方針でよいか。
＜荒井協議会員＞
継続する方針で進めて頂きたい。
新八千代病院では様々な取組を行っているが、どの程度効果があったのか、常に疑問に思いながら進めている。
地域リハ・パートナー制度が現実的となってくれば、地域に根差した取組ができるのではないかと思っている。
＜滑川協議会員＞
指定を受けたい又は検討したいと回答した、4病院の感触について教えて頂きたい。

<事務局>

指定を受けたい病院に関しては、事務量がわからないとの意見を頂いている。その件については、説明会で説明したいと考えている。

イ 「ちば地域リハ・パートナー」制度について

「ちば地域リハ・パートナー」制度の今後の進め方等について、資料2を用いて事務局より説明。

<吉永会長>

説明のあった内容については、各広域支援センターより了解をもらっているのか。

<事務局>

各広域支援センターへは、平成28年5月に開催した担当者会議において説明を行い、その後ご意見を頂いて修正した結果が、本日説明した内容となっている。

<荒井協議会員>

ちば地域リハ・パートナー制度に手上げをしたら、強制的に協力しなければいけない印象を受けるのではないかと。協力不可能な場合は構わない旨記載した方が良いのではないかと。

<事務局>

実施要領（案）の5協力要請（3）で、可能な範囲で協力する旨記載している。募集要項の書き方については、工夫したいと思う。

<薄協議会員>

PT会として、積極的に協力したいと思っている。

ちば地域リハ・パートナーになった場合、全てを丸投げされるのではなく、広域支援センターと協働しながら実施できる様な仕組みにして欲しい。

<吉永会長>

広域支援センターとの協働というのは、県全体での話か。

<薄協議会員>

広域支援センターから要請があった際に、各広域支援センターのPTと共に取り組むことによって、顔の見える関係が築けると思っている。

<山崎協議会員>

これまで、訪問看護ステーションでは研修会への参加など、広域支援センターとの連携を図ってきており、活動内容について理解できるが、この募集要綱を見てちば地域リハ・パートナーにどのくらい応募する機関があるのか、疑問に思う。

また、募集要項の業務内容が漠然としており、受けたら負担が増える印象を受ける。県から募集要項が来ただけでは応募してみようという気にならないのではないかと。広域支援センター側からのアプローチがあった方がイメージしやすいのではないかと。

<事務局>

県支援センターで、広域支援センターの実務者研修会を予定しており、ちば地域リハ・パートナー制度を使った支援について検討いただけると聞いている。

広域支援センターと日頃から、付き合いのある機関に対し声を掛けて頂くのは構わない。

業務内容については、広域支援センターと協議をしながら決めていくこととなり、広域支援センターで、ちば地域リハ・パートナーを集めた会議などを開催してもらえればありがたいと思う。

<吉永会長>

その他、書きぶりについて何か意見はないか。

<山崎協議会員>

研修会や講演会への協力については、日頃から開催通知をもらっているのでイメージしやすいが、例えば、市町村との関わりについては、広域支援センターと市町村との関

わりが見えないため、どの程度支援をするのかわからないと思う。この事業のこういう部分をお願いしたいなど、具体例があった方が良く思う。

<荒井協議会員>

なかなか、広域支援センター独自では他の病院には頼みにくい場合がある。広域支援センター及び県の両方から、ちば地域リハ・パートナーへの手上げについて各病院へアプローチして頂きたい。

<吉永会長>

ロゴマークについては、どの様な用途があるのか。

<事務局>

ロゴマークについては、指定書に表示をしたいと考えている。また、名刺などに使用して頂きたい。

(3) 報告

ア 千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業実施要綱及び協議会運営要綱改正について

千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業実施要綱の改正内容及び、協議会運営要綱の改正予定について、資料3を用いて事務局より説明。

イ 平成28年度千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動計画及び実施状況について

県支援センター及び広域支援センターの活動計画・実施状況について、資料4を用いて事務局より説明。

ウ 平成28年度地域リハビリテーション出前講座の実施について

地域リハビリテーション出前講座の応募状況等について、資料5を用いて事務局より説明。

<千葉リハビリテーションセンター田中氏>

先日第1回目を千葉市内の小学校で実施した。

生徒が集中力を切らさないような講座にすることが大切だが、学校の規模がまちまちであるため、工夫が必要だと思った。

今回のポイントは、あくまでもリハビリテーションの出前講座ということで、単なる福祉教育ではないことを先生にお伝えしている。体の不自由な方を手伝うだけではなく、こうしたら自分で出来るようになるという点に気づいてもらえるように、講座の組み立てをしている。

エ 第51回県政に関する世論調査結果について

世論調査の経緯及び結果について、資料6を用いて事務局より説明。

<千葉リハビリテーションセンター田中氏>

出前講座で、リハビリテーション及びリハビリという言葉聞いたことがあるかとの質問をしたところ、73名の内リハビリテーションという言葉聞いたことがあるが3名で、リハビリという言葉聞いたことがあるは全員であった。

また、リハビリテーションはリハビリを受ける施設だと思っていたとの回答もあり、周知の必要性を感じた。

<滑川協議会員>

リハビリについては、どの様に思っていたのか。

<千葉リハビリテーションセンター田中氏>

実際、病院でリハビリを受けたことのある子は、リハビリ＝訓練とのイメージがあった。

また、パラリンピックの前ということもあり、メディアを通じてリハビリはスポーツなどで怪我をした人が病院で行うものとのイメージがあるようだった。

オ 千葉県地域リハビリテーションロゴマークについて

千葉県地域リハビリテーションロゴマークの作成・用途について、資料7を用いて事務局より説明。

<滑川協議会員>

名刺以外で何か用途はあるのか。

<事務局>

イベントのチラシや、広域支援センターのホームページ等で使用してほしい。

(4) その他

事務局より、平成28年度第2回協議会については、3月開催予定の旨説明。